

頭部の舞踊表現

若松美黄

1. はじめに

学問の方法には、二つある。fact finding と understanding である。いずれも、新たな知見、論の独自性が論証されなくてはならない。しかし、シンポジウムという立場で悩むのは、多様な立場の人々を前提とした、常識的な概論が求められていることである。研究者は、頭部について、何らかの研究を積み重ねていると思われるが、筆者個人の、頭部関連では以下の三種類の実験・調査がある。概論の前に、研究者間の研究結果の突き合わせが望まれるが、なかなか困難だ。科研費研究による大型プロジェクトを将来は実現したい。ここでは、貧弱ではあるが、たたき台として、筆者の、個人的な研究を提示し、概論に繋げたい。

1) 脳波の導出については、1992-93年、筑波大学、藤田紀盛教授と実験を開始し¹⁾、筆者が被験者となり、座居でイメージトレーニングした。 α 波の導出を試み、前頭、頭頂、後頭部に、かなり、自由に α 波の導出が行えた。これは、内観から言うと、筆者は作曲もするので、音楽を聴くだけでは、 α 波の導出がなく、頻度の高かったものは、心の中に、いつも行うバーの音楽を感じ、イメージトレーニングしたものであった。

2) 姿態論からは、1988年の「ダンスにおける出と姿態の研究」²⁾で、lateral dominance 調査11項目中6項目、利き目、大きな目、鼻の曲がっている方、帽子をかぶって隠れる方、首の傾斜しやすい方、首の回しやすい方が、頭部関連で、サンプル数80(体育43, 37, 比較文化37)女子では、利き目78.8%右、首の傾斜71.3%右、首の回しやすい方65%右が帰無仮説検定で有意であった。これらの相関係数は、首の回しやすい方と傾斜しやすい方の相互が有意であったが、主として利き手との関連が強かった。人間の顔は、左が大きいので、歌舞伎では左半身となるとする従来の研究(江口³⁾)は、この調査では、認められなかった。

3) プロポジションからは、1986年「美的姿態の研究」⁴⁾ サンプル数108, 1990年「日本の姿態類型の研究」⁵⁾ サンプル数168で、DAP法による計量がある。頭部関連では、頭部の向きが前者で、46.4%左側、後者で36.3%、と左顔を見せる傾向は有意であった。又、頭部と身長比では、頭部がそれぞれ、6.3, 6.1頭身となった。しかし、DAP法は、ゴーマンの言うように⁶⁾、画像に感情移入

した結果と思われる。Son, 1996年「中国における舞踊家のイメージ研究」⁷⁾では、中国の舞踊家113名、が有意に小さい頭、長い首、長い脚を選択した。これは現代の、世界的な舞踊家の類型であろうと思われる。又、テレビのショーダンスで、安室のような小頭、ロングヘアーの若い娘が頭部を放るように踊るのも、95年以後の映像文化と結びついていることが、観察される。ここには、顔の表情を写すテレビの機構、ロングヘアー、頭小、脚長ダンサーの出現、若者の西欧的身体変化が反映していると思われる。

頭部研究と言っても、精神集中、五感の脳的な認識、レーチュラリティ lateral dominance などの問題、視聴覚の認識能、神経細胞の伝達能、呼吸などの分析、情報の受け手、送り手にまつわるコミュニケーション理論や心理学、文化人類学、美学などとの学際的な方法など、頭部の技法という切り口で、数多く研究が展望される。

洋舞における頭部の表現を概論として、以下のように整理した。

2. 頭部の範囲

首、顔面、頭

3. 頭部の位置づけ

- 1) 中枢としての頭部、2) 部位としての頭部、
- 3) 二重性(サインとしての頭部、シンボルとしての頭部、舞踊的全体と対応)

4. 対象領域

1) 部位から

- (1) 顔、頭等を、左右、上下、中央、周辺等に区分、左顔、頭頂、輪郭、等
- (2) 意味のある部位を独立させて、目、眉、頬、額、顎、口、髭、髪、首)
- (3) 部位間の関連～目鼻立ち、鷲鼻で眼光鋭い、身長と頭部一能面と男性の平均身長

2) 全体から

- (1) 現象的な典型像～老若、美醜、感情の表出
- (2) 象徴的な典型像～聖俗、生死、色彩・マドリガルコメディの黒色面等
- (3) 類型的像～社会階層的・貴族、金持ち、インテリ・労務者、年齢的、性別的
- (4) 運動効率性～視線の技法、頭部、頸部の活用

3) 運動態様から

- (1) 頭部全体を単位としてを独立して～平面回転, 垂直回転, スイング, 左右, 上下, 捻転, 痙攣,
- (2) 部位を独立させ～髪振り, くわえる, 口を動かす, 舌を出す, 眉間にしわを寄せる, 眼球を回す, 眉や瞼やを動かす, 鼻を動かす
- (3) 手その他の身体部位との関連で～髪をかきむしる, 頭を床に打つ, 頭をなでる, 指を鼻に入れる・耳に入れる, 頬を殴打する, 首を絞める, 目をつつく, 耳たぶを引っ張る

4) 周辺態様

- (1) 顔面～化粧, 眼鏡, 仮面, くわえもの,
- (2) 頭部～髪型, 髪飾り, 冠, バンダナ, 花等の小道具, イヤリング, かぶりもの
- (3) 首部～ネックレス, ネッカチーフ

5. 頭部へのアプローチ法

1) 舞踊文化人類学的

- (1) 民族の形態～長頭～短頭, 顎の形態, 鼻の高低, 口, 目, 耳の大小
- (2) 文化行動～目を剥く(歌舞伎), 白目を見せる(舞踏), 舌を出す(バリ島の魔女), キスする, 頬を付ける,
- (3) 頭部の意味類型～踊りの役柄, 髪(ジゼル)の狂乱の乱れ髪), 髪と社会階層・結婚・娘, 長い顔の魔女, 丸顔のバック, 仮面, 冠の意味,
- (4) 手と関連しての頭部～あかんべー, くるくるパー, 軽蔑語法と敬意語法の分節化

2) 舞踊人体運動機能学的(dancekinesiology)

- (1) ゆったりした動作～バランス, 重心, 起き上がり
- (2) 急速な動作～跳躍, 回転時の頭部の反動, 回転トルク, 振り回し
- (3) リラクゼーション～呼吸調整の頭部

3) 舞踊生理学的(動態的, 静態的)

- (1) 機能系～神経, 頸反射, 中枢の緊張, 垂体路系, 垂体外路系, 呼吸調節, 血流, 貧血, 脳波, リラクゼーション
- (2) 部位の形態と働き～骨格, 形態, 目, 目球動作, 視野, 瞳孔, 眉, 鼻, 耳, 口, 舌, 唇, ひげ, 顎ひげ, 髪, 視覚, 聴覚
- (3) 他の身体部位との相互作用～呼吸調整・筋紡錘, 中枢と末梢, 視聴覚からの眩暈

4) 舞踊心理学的

- (1) 顔の表情～感情, 快不快, 喜怒哀楽
- (2) 審美的顔～美醜, リビドー, 象徴論
- (3) 部位の意味, 聖, 俗, 愛
- (4) 認識～錯視, テキスト, コンテキスト
- (5) 典型像～タイプと顔, 仕事と顔,

5) 舞踊美学的

ギリシア像の分析, 図像学, 類型研究, 象徴, 認識

6) 舞踊作品的

- (1) 舞踊技法的
- (2) 舞踊創造的
- (3) 舞踊作品的～, 作品類型分析(白鳥 swan-necked dancer 魔女の頭部, 悪女の髪の毛, 王子の髪型, 男性の唇メイク)
- (4) 舞踊仮面, 髪飾り, 化粧研究
- (5) 象徴としての頭部

6. バレエ, モダンダンスにおける基礎文献

1) Delsarte System

デルサルトシステム⁸⁾が, モダンダンスに, 影響を与えてきた。デルサルト(1811-1871)は, 特に, ダルクローズ(Jaque-Dalcroze), ショーン⁹⁾(Ted Shawn)を通じて普及した¹⁰⁾。

2) Blais System

ブラシス¹¹⁾ ^{註1)} ^{註2)} ^{註3)}こそ, ダンス・アカデミックの嚆矢である。ブラシス(1797-1878)は Dauberval の弟子。ダンス・アカデミックの語は, 彼の活動に由来した。

7. Delsarte System

1) IN RELATION TO THE HEAD (頭部関連事項)

- (1) Its significant zones; (意味地帯)
- (2) Its attitudes; (気分の態様)
- (3) Its inflections. (抑揚)

The zones of the head-as points of departure or arrival for the gesture (頭部-ゼスチャーの出発, または到着地点)

2) THE FACE (顔)

- (1) Forehead and eye are mental (額と目は, 精神的である)
- (2) Nose and cheek are moral (鼻と頬は, 道徳である)
- (3) Mouth and chin are vital (口と顎が, 活力である)

3) THE TOP AND BACK HEAD (頭頂と後頭)

- (1) The zone above the forehead is mental; (額より上の地帯は, 精神的である)
- (2) The zone on top of the head is moral; (頭頂地帯は, 道徳である)
- (3) The zone at the back of the head is vital (後頭地帯は, 活力である)

手が指示する部位に感情の意味が生じる。

例 顎をさわる～食欲と情熱, 額をさわる～精神性, 頬をさわる～道徳, 愛欲

4) ATTITUDES OF THE HEAD (頭部の態様)

- (1) nor-nor. calm repose (穏やかな休息)
- (2) con-nor. trust, tenderness, sympathy,

affection, esteem from the soul (信頼, 優しさ, 同情, 愛情, 魂からの尊敬)

- (3) ex-nor. distrust, esteem from the senses (疑惑, 感覚の尊重)
- (4) nor-con. reflection, concentration, scrutiny, humility (反射, 集中, 詮索, 謙遜)
- (5) con-con. humility plus trust and affection = veneration, adoration (信頼と愛情を加えた謙遜=尊敬, 崇拜)
- (6) MSE ex-con. scrutiny plus distrust = suspicion, hate, envy, jealousy (疑惑を加えた詮索=疑い, 憎しみ, そねみ, 嫉妬)
- (7) nor-ex. exaltation, exposition from self as a centre, a lifting to the universal (高揚, 中心としての自己からの爆発, 全世界への提起)
- (8) con-ex. exaltation plus trust, abandonment plus trust = resignation or abandonment to sense or soul (信頼をプラスした高揚, 信頼を加えた放棄=感覚か魂への服従か放棄)
- (9) ex-ex. exaltation plus selfassertion or distrust = arrogance (自己主張か疑惑を加えた高揚=横柄)

5) INFLECTION OF HEAD (頭部の移行)

Inflections of head, other than those necessary for oppositions of movement, should be avoided as weak. Two are in common use: (動きに逆らう必要がある場合の頭部の移行は, 弱いものとして避けられなければならない。通常は, 共通の使用方に二つある。)

- (1) A rotation from shoulder to shoulder, expressing negation; and (肩から肩への回転, 否定を表す)
- (2) a movement down, signifying assert. (下がる動き, 主張を示す)

6) DIVISIONS

- 1. Active (行動的)
- 2. Passive (受動的) それぞれ,
 - 1) Divine
 - 2) Human
 - 3) Animal (神の, 人間の, 動物の) と分類
- 3. Neuter (中立)

以下, 同様に, 発展する。

THE EYES, (目)

EYEBALL (眼球)

BROW-UPPER LID-UNDER LID (眉, 上のまぶた, 下のまぶた)

COMBINATION BETWEEN EACH OTHER (相互の組み合わせ)

PROFILE, NOSE, LIPS, JAW, MOUTH (プロフィール, 鼻, 唇, 顎, 口)

8. Blasis System

1) Study of the Body

上体は, erect and perpendicular (起立し, 垂直に) Attitude や Arabesque 時には, そのポーズに対応して lean (傾ける) Throw your breast out and hold your waist in as much as you can (できる限り, あなた胸を張り, 腰を内側に保ちなさい)

2) Action of the Head (Ibid. pp.72-76)

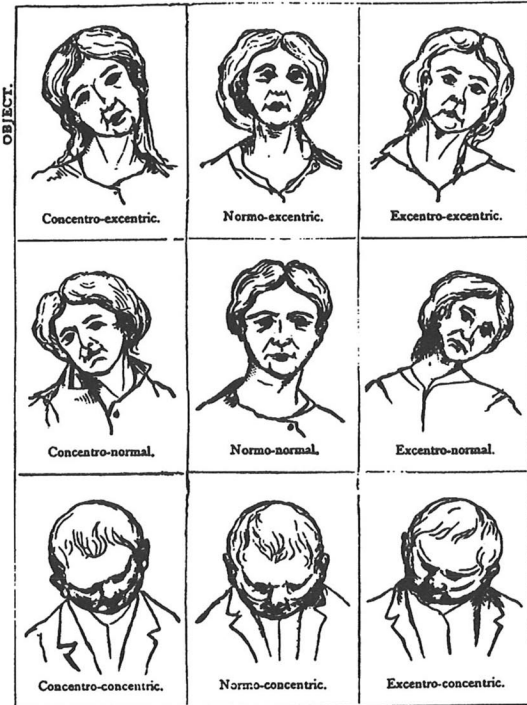
(1) Always draw your body well up, and especially your head, even in your minutest poses, if not, your performance will be void of expression, and first positions of dancing the head is placed fronting; those are poses of attitude. (いつも上体を, 特に頭を充分に引き上げなさい。最も小さなポーズの時も。そうでなければ, 表現が空疎になるであろう。従って, 踊り始めのポジションでは, 頭は正面向きに置かれる。)

(2) "Never let your headrest perpendicularly upon your shoulders, but incline it a little to the right or the left, whether your eyes are cast up or downwards or straight forwards; as it is essential that it should have a pleasing yet natural vivacity of motion, and not appear inactive and heavy."

(頭を肩に対し垂直にしてはいけない。左右どちらかに少し傾斜する。視線に関わらず。運動の自然の活発さが喜びをもたらす, 不活発で重く見えないことが, 要点だ。)

(3) Endeavour to hold your body in a perfect equilibrium; to which end never let it depart from the perpendicular line that should fall from the centre of collar bone down through the ankles of both feet. (あなたのボディを完全な釣合いに保つべく試みなさい, 即ち, 鎖骨の中央から両足首を抜ける垂直線をズレないように終了するように。)

モダンダンスにおいては, 数々のビデオを投射し, バレエにおいては, バレリーナーの尾本安代が, 腕の使用, その場回転, 連続回転時の頭部, 役柄における頭部使用の実例を, その場で示した。



PLANE OF THE INFERIOR.
 Delsarte System of Expression (8)より引用
 図1. デルサルートの頭部表現の意味

引用文献

1. 若松美黄・藤田紀盛 (1993) 脳波の調整に関する研究 (未発表)
 2. 若松美黄 (1988) ダンスにおける出と姿態の研究。筑波大学体育科学系運動学類運動学研究 3: 1-10。
 3. 江口隆哉 (1970) 舞踊創作法, カワイ楽譜, pp.93-191。
 4. 若松美黄 (1986) 美的姿態の研究。筑波大学体育科学系紀要 9: 79-90。
 5. 若松美黄 (1986) 日本の姿態類型の研究。筑波大学体育科学系紀要13: 61-71。
 6. Gorman, W. (1969) Body Image and the Image of the Brain, Warren H. Green Inc.: Missori, p. 162.
 7. Son. E. (1996) 中国における舞踊家のイメージ研究。筑波大学修士論文集
 8. Stebbins G. (1977) Delsarte System of Expression, Dance Horizons: New York, pp. 217-243.
 9. Shown, T. (1954) Every little movement, Dance Horizons.
 10. Maynard O. (1971) In Homage to F. D.: 1811-1871. Dance magazine/8
 11. Blasis C. (1828) The Code of Terpsichore: translated by Richard Barton (1831) The Art of Dancing (1928): James Bulcock (1928), Dance Horizons. pp. 72-76.
- 註1. Blasis C. (1820). Milan) Elementaire, theoretique et pratique del' art de la danse, Traite.
 註2. Blasis C. (1847) Note Upon Dancing. London.
 註3. Blasis C. (1857) L'Uomofisico, intellettuale e morale. Milan

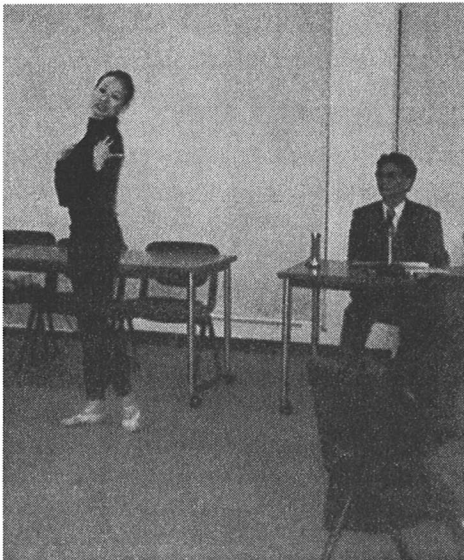


写真 尾本安代



*1996年度秋季第42回舞踊学会
 『舞踊學』第20号より転載